

do it pro bono.

サービスグラント 年次報告書2013

[2013年4月1日－2014年3月31日]

SERVICE GRANT
特定非営利活動法人 サービスグラント

目次

2013年度を振り返って	3
1 サービスgrant	4
2 多様化する参加スタイル	8
3 企業との協働	10
4 行政との協働	12
5 プロボノに関する広報活動	14
6 国際的ネットワーク	15
7 情報発信実績	16
8 会計報告	18
9 理事からのメッセージ	19

ダイジェスト

2013年度のプロボノプロジェクト実施件数は**79件**となりました。うち、ウェブサイト、事業計画立案等を支援する「サービスgrant」が**42件**、2013年度から開始したワンデー(1日)プログラムが**22件**となりました。

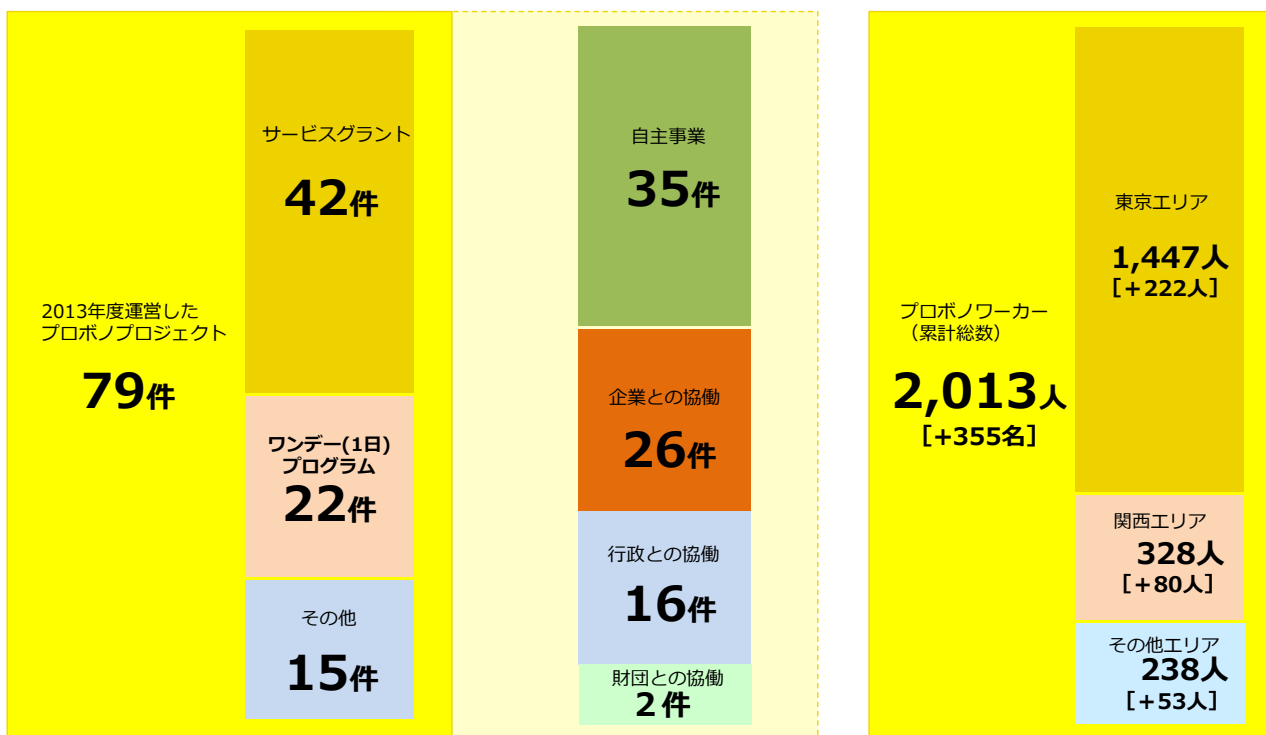
⇒ サービスgrantについては P.4 をワンデー(1日)プログラムについてはP.8をご覧ください

企業との協働により**26件**、行政との協働により**16件**のプロジェクトを実施しました。

⇒ 行政との協働は P.8-9を企業との協働は P.10-11をご覧ください

プロボノワーカーのスキル登録者数は、昨年度から355人増えて、**2,013名**となりました。

⇒ プロボノワーカーについては P.6 をご覧ください



2013年度を振り返って

年度が始まる少し前の2013年2月末、米国・ニューヨークで、初のグローバルプロボノサミットが開かれました。全米各地から、そして、世界各国から、プロボノのコーディネートを専門とする団体が集まる、世界的なネットワークの始まりです。

そこで得た学びの一つが、“done-in-a-day”と呼ばれる、1日完結型プロボノプログラムの広がりでした。

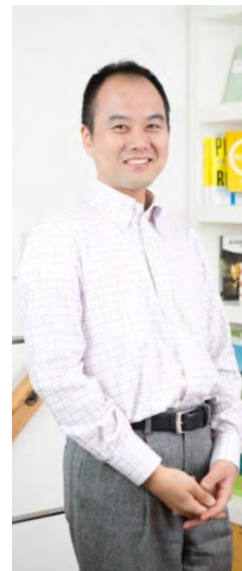
じっくり腰を据えた半年間のプロボノの良さもあるが、そうした長期間のコミットが難しい人や団体に開かれた場として、短期間で取り組めるプロボノのスタイルにも挑戦すべき。そんなメッセージ受け取って、新しい年度がスタートしました。

そして、1年間をかけて、大阪では1日完結型のプロボノイベント「大阪プロボノマラソン」を、東京では複数の企業と協働で1日でNPOの課題整理に取り組む「プロボノREADINESSワークショップ」を実現。プロボノの新しいスタイルとして、また一つ、サービスグラントの活動に厚みが増しました。

2005年に、わずか3件のウェブサイト支援プロジェクトから始まったサービスグラントは、毎年毎年、少しずつ、でも、着実に、新しい手法やプログラムを取り入れながら、成長しようとしています。それもこれも、まだつながれていない様々なニーズがあり、まだ解決できていない様々な社会的課題があるからこそ。これまでの取り組みの良いところは十分に生かしつつも、日々改善、日々進取の精神で臨んでいくことの大切さを感じる毎日です。

特定非営利活動法人 サービスグラント

代表理事 嵯峨 生馬



支援先一覧

2013年度中に、サービスグラントが関わらせていただいた支援先団体の皆さまをご紹介します。
団体名は五十音順で、法人種別を省略させていただきました。

東京エリア

アート&ソサエティ研究センター
ICYE JAPAN
アジア女性資料センター
医療市民マイスター
いわて連携復興センター
開発教育協会
かのものはしプロジェクト
外国人の子どものための勉強会
キーパーソン21
キズキ
GoodDay
グリーンバード
気仙沼産業センター
サンガ岩手
シャイン・オン!キッズ
S I E N
ジービーパートナーズ
自立化(相互)支援ネットワーク
CPサッカー&ライフ エスペランサ
GRA
シェア
JAMネットワーク
湘南DVサポートセンター
3keys
SPAN
セカンドハーベスト・ジャパン
SAVE TAKATA
全国町並み保存連盟
育て上げネット
tadaima!

ダイバーシティ工房
千葉県工業教育コンソーシアム
TENOHASI
D×P
東京コミュニティスクール
東京YWCA
日本こどものための委員会
日本アレルギー友の会
箱根国立公園
ピースボート災害ボランティアセンター
ピープルズ・ホープ・ジャパン
FEE Japan
プロジェクト結
ファミリーハウス
ファザーリングジャパン
モンキーマジック
陸前高田キャピタルホテル1000
WATALIS

関西エリア

アクセス
旭区まちづくりセンター
旭区中宮地域活動協議会
旭区・中宮地域活動協議会
生野区・東桃谷地域活動協議会
生野区・東中川地域活動協議会
FC岸和田
えんばわめんと堺
音の風
大阪精神医療人権センター
かんなびの丘
関西こども文化協会
気候ネットワーク
CAPセンター・JAPAN
国際交流の会とよなか
子ども・青少年育成支援協会
此花区・梅香地域活動協議会
城東区森之宮地域活動協議会
ソムニード
sosshare
棚田LOVER's
大正区・南恩加島地域まちづくり実行委員会
鶴見区今津地域活動協議会
鶴見区・焼野地域活動協議会
天王寺区聖和まちづくり協議会
東成区・宝栄まちづくり活動協議会
東成区・中本地域活動協議会
東成区・深江まちづくり活動協議会
Homedoor
もなか会

1 | サービスグラント

プロジェクト件数が累計156件に達しました

2013年度は、東京・関西あわせて42件の「サービスグラント」を実施しました。サービスグラントでは、支援先のニーズの多様化に対応して、プロボノプログラムの種類の拡充を進めています。4分野8種類のメニューを提供する中で、2013年度は、これらのメニューがほぼ万遍なく活用されたことが特徴的な傾向といえます。これまで支援件数の多かった情報発信に関する支援については、ウェブサイトが5件、印刷物が8件となる他、営業資料が5件、事業計画立案が7件、マーケティング基礎調査が7件、寄付管理が4件、業務フロー設計が6件に達するなど、NPOの事業戦略や組織運営に関するコンサルティングを行うプログラムにも多くのニーズが見られました。

2013年度末時点で、サービスグラントのプロジェクト件数は、累計156件となりました。

4分野・8種類のプログラムでNPOニーズに対応

2013年度も引き続き、幅広いNPOニーズに応える4分野・8種類のプロボノプログラムを提供しました。NPOのプロボノに対するニーズの多様化を反映し、各プログラムがほぼ均等に活用される結果となりました。

ウェブサイト

必要な情報を読み手の視点に立って整理し効果的に情報を伝えていく機能性と、デザイン性を兼ね備えたウェブサイトを構築

営業資料

企業との連携・協働の実現に向けて、企業へのアプローチ手法の検討や、企業に魅力を感じていただけるような提案内容の検討を踏まえた営業資料を作成

印刷物

さまざまなステークホルダーに向けてNPOの活動を効果的に伝えていくため、必要最小限の言葉とビジュアル要素から成る効果的なパンフレットを制作

寄付管理

認定（または仮認定）取得を目指すNPO法人を対象に、経費処理および寄付者管理の業務課題の分析、改善提案ならびに必要な業務ツールを提供

業務フロー設計

業務を整理し、適切な情報発信や効率的な対応業務を実現するために業務フローを改善し、必要な業務ツール類を制作

事業計画立案

外部環境を客観的に分析して、どのように外部環境に対応し、社会課題の解決に寄与していくべきかを中長期的な視点で検討し、事業計画を提案

プログラム運営マニュアル

一部の限られたスタッフのみがノウハウを持っている業務を整理し「マニュアル」を制作。業務効率の向上や新人スタッフ等に活躍の機会を広げ事業を水平展開していく基盤整備を支援

マーケティング基礎調査

NPOの活動に関する利用者や支援者からの評価の客観的調査、競合・類似サービスの調査など事業環境、市場環境の調査を通し、プログラムの改善方針、事業展開について提案

サービスグラントプロジェクト件数

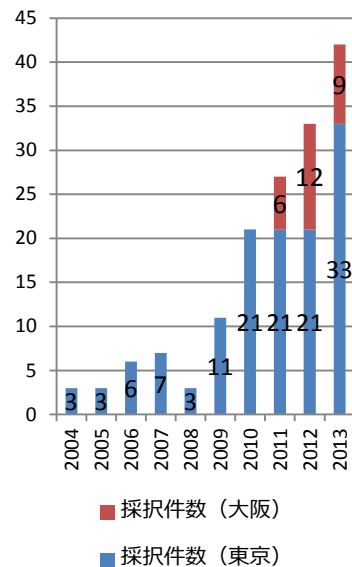
42件

前年比
+9件

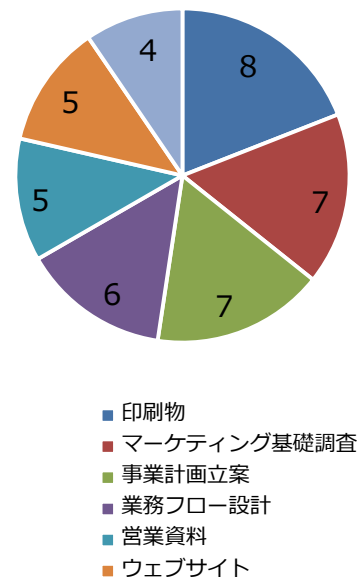
累計
156件

NPOの活動計算書上の金銭換算値

1億3750万円相当



(図2) 2013年度採択数の地域内訳



(図1) 2013年度プロジェクトの提供成果物の種類内訳

プロジェクト進行の「見える化」をウェブサイト上で実現

サービスグラントでは、常時、多数のプロジェクトが同時並行的で進行しています。プロジェクトに参加するプロボノワーカーの皆さまに、同時期に走っている他のプロジェクトの状況をお伝えするため、また、これからプロボノに関わってみたいと思うNPOや企業人などのみなさまに、プロジェクトの雰囲気や様子を少しでもリアルに感じ取っていただくため、プロジェクトの進行状況を「見える化」する取り組みをはじめました。

従来のサービスグラントにおける進捗管理システムをバージョンアップし、プロジェクトの進行状況の把握とウェブサイトを通じた情報発信とを連動させ、支援先の活動概要、および、プロジェクトの進捗をいつでも確認し、進捗を共有できる環境を整えました。

また、関係者や一般の方がソーシャルメディアを通じて、プロジェクトや取り組みに対するコメントなどを残すことができる、参加型のしくみも取り入れています。

ご覧になるには、サービスグラントのウェブサイト・トップページの「進行中のプロジェクト」ボタンをクリックしてください。



2013年度 プロジェクト事例紹介



【支援先】
一般社団法人
ピースボート災害ボランティアセンター

【サービスグラントの種類】
営業資料サービスグラント

今後の防災の観点から、企業における災害に関するトレーニングを提案するための営業資料作成を行いました。企業担当者のヒアリングを行い、当初ピースボートさんが想定していた災害ボランティア養成ではなく、企業の従業員や顧客に対する防災対応に関するトレーニングが、より企業ニーズにマッチしていることが明確になりました。そのため、新たなトレーニング開発につながり、またそのトレーニング内容での営業資料の納品となりました。

支援先からのコメント

「内部でなんとなくわかってはいても、材料を揃え、方向性を変える決断をするのは難しく、外部の方々に入っていたくことの効果を実感しました。」

【支援先】
NPO法人
気候ネットワーク

【サービスグラントの種類】
ウェブサイト・サービスグラント

2012年度に関西第一号となる事業計画立案サービスグラントにて組織の課題整理を行い、会員獲得の強化に向けた実施計画をまとめました。それに次いで、会員獲得計画の一環として翌年度は、ウェブサイトの刷新に着手しました。政策提言や調査研究の成果など、長年の活動の中で蓄積された膨大なコンテンツをどのように整理し、設定したターゲットにあわせて提供できるか、デザインと機能性、両面において難易度の高いプロジェクトとなりました。

支援先からのコメント

デザインの刷新、SNSとの連携の充実、タグ付けによる関連性の高い記事検索機能の向上など、NPO側の希望によく配慮いただき高品質なウェブサイトができ、リニューアル後の直帰率も大幅に下がったという早速の効果も確認できました。



プロボノワーカー
スキル登録者数

2,013名

前年比
+355名

2,000人を上回るプロボノワーカー

プロボノワーカーの登録件数は355人増

サービスグラントにスキル登録をいただいたプロボノワーカーは、2013年度、新たに**355名**を数えました。

そして累計登録者数も、2013年度にとうとう2,000人を突破。2013年度末累計のスキル登録者数は**2,013名**に上りました（図1）。2011年度にご登録者数1,000名に到達するまで7年近い年月を費やしましたが、その後の約2年間弱でさらに2倍となる2,000人のご登録をいただくことができました。

広がるプロボノのすそ野

(1) 社会人年数別

幅広い世代からご登録をいただいておりますが、特に社会人年数6～10年、11～15年を中心に、20代後半～40代の働き盛りのビジネスパーソンに数多くご登録いただいております（図2）。

(2) 男女別

男女比については、比べてやや男性のご登録率が高まりました。（図3）。

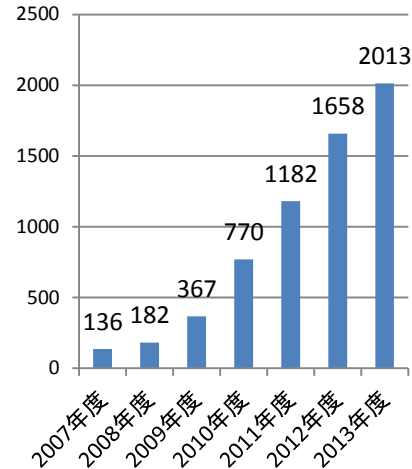
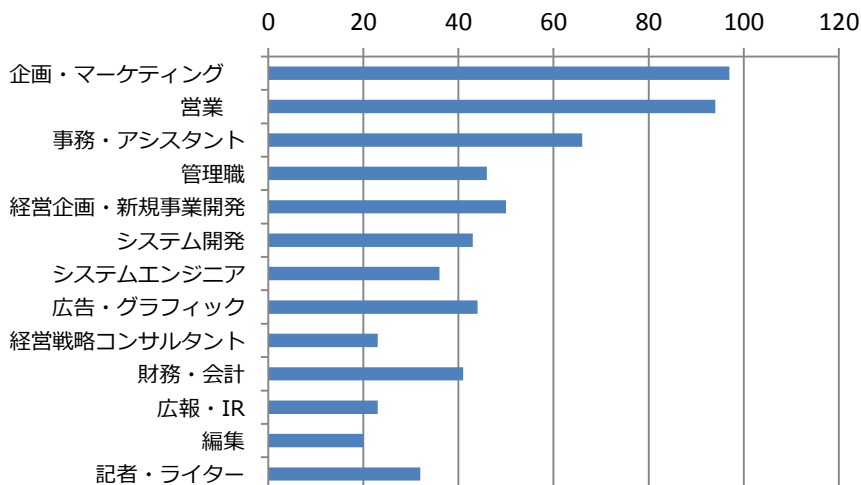
(3) 職種

ここ数年の傾向として、営業職や事務職の方の登録が目立っています。以前は、クリエイターや“士”業の方など、目に見えやすいスキルや資格を持った方が取り組むイメージが強かったプロボノ。最近では社会人のみなさま一人ひとりが持つスキルを活かしてプロボノができることに対して、理解が広がってきているようです。今後も、より幅広い職種の方にご参加いただけるよう、プロボノの輪を広げていきたいと考えています。

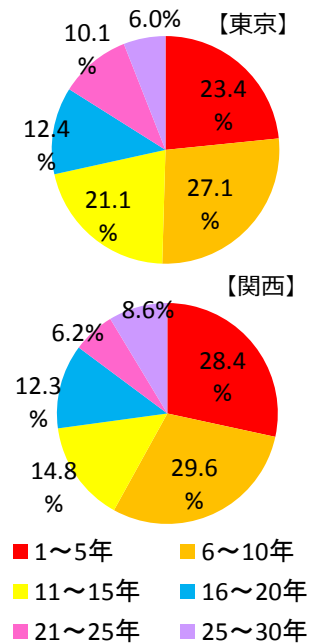
1年間で320名以上がプロジェクトで実稼働

今年度は、プロジェクト件数が増え、プロボノとしての参加機会が広がったことから、東京・関西合わせて320名以上のプロボノワーカーの方にプロジェクトにご参加いただきました。

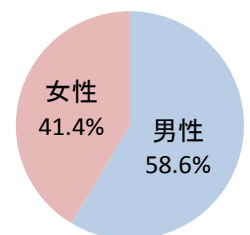
【参考】職種別登録数（2013年度） ※複数回答あり



（図1）スキル登録者数の推移



（図2）社会人年数別登録者の比率



（図3）男女別登録者の比率

プロボノワーカーの募集と交流機会の創出

プロボノワーカー説明会

東京、関西とも月3〜4ペースで説明会を開催。説明会後にはプロボノを通じた異業種交流として名刺交換タイムも設け、人脈作りにも繋がる場となりました。プロボノに関心のある方は社交性の高い方も多く、説明会の場で初めて方とも積極的な交流を深めていらっしゃいました。また最近のご参加者傾向としまして、社会貢献に関心がある方はもちろんのこと、ご自身のスキルアップを目的とした方も多くみられ、プロボノへの参加動機が多様化を実感します。

プロボノワーカーLOUNGE

今年度は東京・関西にてそれぞれ開催しました。スキル登録間もない方、複数回プロジェクトご参加経験がある方など、サービスグラントに対してバックグラウンドが異なる様々なプロボノワーカーが一堂に会し、情報交換を楽しんでいらっしゃいました。

大人の社会科見学 in OSAKA

関西のプロボノワーカー有志によって企画運営されているユニークな勉強会イベントです。「公募区長が考える地域経営」「地域共通の課題」「DVが子どもに与える影響」「地域福祉×デザイン」など、毎回、社会的な課題を取り上げ「楽しく」「まじめに」「ホントのところを見つめる」をテーマに2013年度は計7回開催。各分野に取り組むスペシャリストをゲストに、延べ164名にご参加いただきました。また、プロボノが関西に広がっていくための方策を考えたり、プロボノ経験を語り合う「プロボノ20人会議」をNPO法人スマイルスタイルと共催。延べ60名の方にご参加をいただきました。



説明会後の写真撮影。様々な職種、年齢層の方にご参加いただきました。



真夏の8月に開催されたLOUNGE@東京では、浴衣姿のご参加者も見られ、暑さを吹き飛ばす盛り上がりとなりました。



大人の社会科見学 in OSAKAは、NPOなど社会課題に取り組むスペシャリストをゲストに毎回異なるテーマを取り上げ、学び、交流しています。

コラム

プロボノで「リーン・イン」を応援！？

～ 女性マネジメント・ポジションの増加に取り組めます ～

サービスグラントに登録するプロボノワーカーの男女比は、およそ6:4と、4割近くは女性が占めています。ところが、ビジネスの現実を反映するように、マネジメント系のポジションとなると、男性75%に対して、女性は25%となり、女性の割合は大きく下がります。

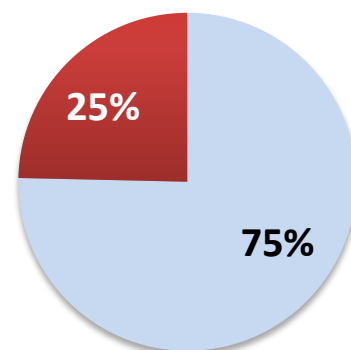
「実際にそうなんだから、プロボノでもそうなるのは当然」…それは一理あります。でも、プロボノだからこそ、本業でマネジメント職に付いていない人でも、これまでの業務経験を活かしてマネジメントに挑戦してみたい。サービスグラントでは、そのように考え、アカウントディレクター・プロジェクトマネジャーの女性比率向上に向けたキャンペーンを展開していきます。

プロボノでマネジメントを経験したことで、本業でもマネジメントに挑戦する、「リーン・イン (Lean In)」を後押しすることが、できるでしょうか。

※「リーン・イン」とは？

スキーマの用語で、前傾姿勢を取りスピードを上げることを意味する言葉。米国Facebook社のCOOシェリル・サンドバーグ氏の著書のタイトルであり、氏が働く女性に向けて、もっと前に踏み出すことを呼びかけるキーワード。

マネジメント層の男女比率



マネジメントポジション（アカウントディレクター・プロジェクトマネジャー）における男女別登録者の比率

2 | 多様化する参加スタイル

「ママボノ」～子育て女性の復職を応援

「ママボノ」とは、育休取得中や、子育てを機に退職した女性を対象としたプロボノプログラムです。

「子育てモード」から「仕事モード」へ。プロボノという会社でも家族でもない人たちとのコミュニケーションの中で、復職に向けたウォーミングアップをしていたくことを目的に、第1回の試験的プロジェクトを2014年1月～3月に、日本財団ママの笑顔を増やすプロジェクト「ママプロ」と協働で実施しました。

ママボノでは、子育てしながら参加しやすいように、プロジェクトの実施期間を約2ヵ月間と短期間に設定したほか、活動時間は平日昼間を中心とする、1チームの人数をやや多めで1人にかかる負担を減らす、さらに、全体で集まるミーティングには子どもの見守りサポートを用意するなどを行いました。

第1回のプロジェクトでは、NPO法人ファザーリングジャパン、NPO法人tadaima!の2団体を対象に、マーケティング基礎調査のプロジェクトに取り組みました。支援先にとっても高い満足を得られただけでなく、参加したプロボノワーカーからも「完全復職のシミュレーション」になった、「ワークライフバランス、夫婦の育児分担等のテーマについて改めて考える機会」が得られた、等のフィードバックをいただきました。



ママボノは日本財団「ママプロ（ママの笑顔を増やすプロジェクト）」との協働により実現しました。

「1日完結型」プログラムで参加のすそ野を広げる

これまで、サービスグラントが運営してきたプロボノプロジェクトは、通常約半年間という、比較的長い期間を必要としてきました。その間、プロボノワーカーは、1人当たり計80～100時間を費やし、チームで合計すると、400～500人・時間程度の工数を必要とするプロジェクトです。

こうした大掛かりなプロボノプロジェクトは、支援先に対して充実したサポートを提供でき、また、プロボノワーカーにとっても、支援先および支援先を取り巻く社会的課題に対する深い理解や、チームメンバーとの一体感など、数々のメリットを生み出すものです。

一方で、NPO側の対応における負担が大きいこと、また、プロボノワーカー側の時間的な制約などから、半年間のプロボノプロジェクトへの参加に敷居の高さを感じる声をいただいていた。

そこで、1日というごく短期間のプログラムを通じて、まずはプロボノを体験していただき、NPOやプロボノに対する興味・関心を持っていただけるような機会を創出することで、より多くのビジネスパーソンに参加のすそ野を広げる取り組みをスタートさせました。

短期（1日）
プログラム

22件

ワークショップ
10件

プロボノマラソン
12件

プロボノONE DAYワークショップ（プロボノREADINESSワークショップ）

プロボノONE DAYワークショップ（※）とは、プロボノによる支援を希望するNPO等の組織課題を整理し、プロボノによって支援できることの内容を提案する、1日完結型のプログラムです。

プロボノによる支援を希望する団体の中には、組織課題が多岐にわたり、課題の整理・構造化が十分にできておらず、解決の道筋が見えていないケースも多数みられます。ワークショップは、支援先の団体が抱える課題の棚卸から始まり、課題の優先順位付けや、課題解決策の選択肢などを提案していくことを目標としています。

団体にとっては、その後の課題解決に向けた道筋が見え、必要に応じて、長期間のプロボノプロジェクトの活用に向けた準備を整えることにつながります。また、プロボノワーカーにとっては、NPO等の課題に直に触れることで、団体に対する関心を深め、同時に、自分自身がプロボノを通じて団体に対してどのようなサポートができるかを見出す機会となります。

今後、サービスグラントでは、この「プロボノONE DAYワークショップ」を定期的に実施していく予定です。



ONE DAYワークショップは、企業人・NPO双方にとっての「お見合い」の場。NPOの課題やニーズを理解し、企業人に見てもらう機会となります。

大阪プロボノマラソン 2013

プロボノを世界的に広げることが目的として位置づけられた2013年度の国際プロボノウィーク（14ページ参照）の幕開けを飾ったのが、国内初の取り組みとなる1日体験型プロボノプログラム「大阪プロボノマラソン 2013」です。

大阪プロボノマラソンは、大阪市内に在住、在勤の社会人が1日で参加できるプロボノワークを通じて地域団体・NPOをサポートし、企業人社会・地域との新たなつながりを創出する1日体験型のプロボノイベントです。

記念すべき初年度は、一般社団法人ナレッジキャピタル様のご協力を得て、大阪のグランフロントを拠点に、NPO・地域団体あわせて12団体に対し、43名のプロボノワーカーよりチームを編成。Facebookの立ち上げや、チラシの作成、ロゴマーク制作といった情報発信に関わるプロジェクトから、組織の課題整理まで、それぞれのサポート先の個別の課題解決にチャレンジしました。

アンケートでは回答者全員が「参加してよかった」、98%が「またプロボノに参加したい」と回答。また、1日の体験を終えた参加者は、「経験のデザイン」「自分の価値観を確認する場所」「自分の知らない自分との出会い」「刺激と気づき」「わくわくする新しい価値創造」「楽しみながら真剣に臨む他流試合」といった表現で振り返りました。



活動現場に赴き、職員と共にワークショップ



会場協力：グランフロントのナレッジサロン

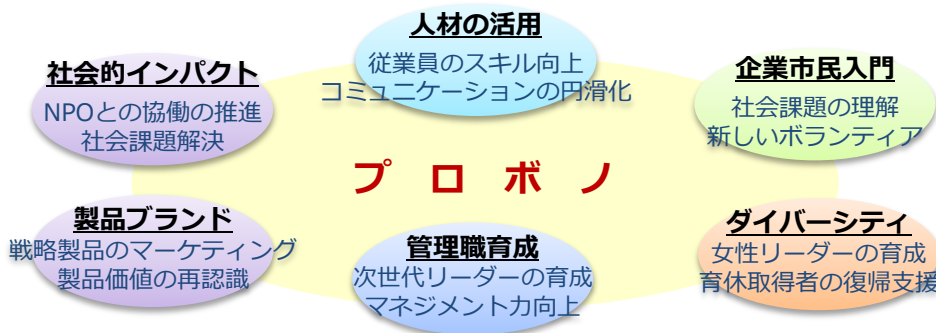


（成果物の一例）
外国人向け町会加入案内の英語、中国語翻訳、
ロゴマーク制作など

3 | 企業との協働

CSR・社会貢献活動の一環として、プロボノへの取り組みが始まっています。
サービスグラントでは、企業のCSR・社会貢献の方向性や、社員の皆さまの経験・スキル、支援先NPOのニーズ等を踏まえて、企業の特徴が活かされるプロボノプログラムの運営サポートを行っています。
今後も、サービスグラントでは、従来の活動の枠を超え、プロボノがより大きな社会的インパクトを生み出す社会貢献プログラムとして、また、人材育成やダイバーシティ、企業ブランド向上等に資する取り組みとして、進化・発展させることを目指しています。

企業との協働 プロジェクト	サービスグラント 11件
	ONE DAY ワークショップ 10件
	独自プログラム 5件
26件	



【協働パートナー企業のご紹介】（※掲載順は、協働開始時期の順です。敬称は略させていただきます。）

日本電気株式会社（NEC）

若手社会起業家育成のためのプログラム「NEC社会起業塾」等から輩出された起業家を対象に、社員がプロボノによる支援を行う「NEC社会起業塾ビジネスサポーター」の第4期が行われました。

今期は、被災地支援団体3団体へITコンサルティングサービスを提供。宮城県山元町にていちご産業復活のため活動するNPO法人G R Aに対しては、年々増加する支援者の管理としてクラウドサービスの導入サポートを実施、組織の運営基盤強化につながる支援を行いました。



2013年度は被災地で活動する3団体を支援。山元町への現地視察や、現地での最終報告会の開催など、相互交流も活発に行われ、具体的な成果物納品に繋がりました。

パナソニック株式会社

パナソニック株式会社では、NPOの組織基盤強化を支援する助成プログラム「Panasonic NPOサポートファンド」を創設し、これまでに239件の組織基盤強化の取り組みを応援してきました。

こうした助成実績をもとに2011年度にスタートした「Panasonic NPOサポート プロボノ プログラム」では、過去に支援したNPOを中心に、社員で構成される「パナソニック社員チーム」でプロボノに取り組んでいます。関東・関西以外にも東北では復興支援を担うNPOへ「被災地支援プロボノ」を展開。2013年度からは新興国・途上国などで国際協力活動を進めるNGOに向けたプロボノを開始し、対話の技術を用いて国内外の地域づくり、人づくりを進めているNPO法人ソムニードに対して同社初のマーケティング基礎調査サービスグラントを提供しました。



2013年度は同社初のマーケティング基礎調査のプロジェクトを実施。新興国支援を行うソムニードなどを応援しました。

株式会社 三井住友銀行

株式会社三井住友銀行は、CSR活動の一環として、東京・大阪の両地域において、社員参加によるプロボノ活動を推進しています。

2013年度は、前年度に開始した「寄付管理サービスグラント」を拡充し、東京エリアで3団体、大阪エリアで1団体の計4団体を対象に実施。寄付者管理に必要な事務フローの整備やマニュアル化、寄付者の情報整理やデータベースの整備など、NPO法人の業務基盤を強化するうえで不可欠な支援を提供しました。



カンボジア等で児童買春を撲滅する活動に取り組む「かものはしプロジェクト」を支援するプロジェクトでは、寄付者への領収書発行業務の負荷軽減や、寄付者の離脱防止につながる施策の提案などを行いました。

日本マイクロソフト株式会社

日本マイクロソフト株式会社では、2011年度、2012年度で取り組まれたプロボノプロジェクトをより多くの社員に対して浸透させる目的で「プロボノREADINESSワークショップ」を実施しました。

5団体の支援に対して社員15名が参加し、NPO、社員双方から高い満足度が得られました。



不妊に関する社会課題の解決に取り組む「Fine」に対して、講演活動に関する業務フロー改善とともにクラウドツールを活かした情報管理による効率化を提案しました。

日本ヒューレット・パカード株式会社

日本ヒューレット・パカード株式会社では、社員参加型の社会貢献活動の多様化をめざし、2013年度よりプロボノプロジェクトを立ち上げました。プロボノ実施に先駆け、サービスグラントと協業で、新プログラム「プロボノREADINESSワークショップ」を開催しました。

ワークショップではプロボノ活動に興味をもつ社員27名が、組織課題を抱える5団体のNPOの課題抽出・整理を行いました。第三者からのアドバイスによってアクション・プランが明確になったと、NPOから高い評価をいただきました。



ニートの若者の社会参加支援に取り組む「育て上げネット」の課題整理を行うチームでは、ワークショップがきっかけとなり、次なるステップとして、団体のIT活用の強化に向けた長期のプロボノ支援につながりました。

三菱商事株式会社

三菱商事株式会社では、震災直後から、東北復興支援に多くのボランティアを輩出していますが、復興をより加速していきたいという狙いから、新たな取り組みとして社員によりプロボノを実施検討することになりました。

そのファーストステップとして支援先2事業者への業務改善、マーケティング基礎調査を行い、短期間であったにも拘わらず支援先からは経営改善につながる有益な支援が得られたとの評価をいただきました。



陸前高田の小高い丘に震災後に移転新築した「キャピタルホテル1000」に対しては、スタッフのスキルアップを図り、サービス向上等に向けた業務改善の提案を行いました。

4 | 行政との協働

支援先地域数

22 地域

大阪の地域づくりに輝かしい成果 ～ 大阪ホームタウンプロボノ

「大阪ホームタウンプロボノ」は、地域づくり活動に取り組む中で、さまざまなサポートを必要とする地域活動協議会と、こうした地域活動を応援したいと考える企業人等（プロボノワーカー）とをマッチングし、地域活動協議会の運営基盤強化につながる支援を提供するプロボノプログラムです。

地域活動協議会といわれるおおむね小学校単位で組織される地域自治組織を対象に、情報発信、イベント活性化、コミュニティ会館などハード的資源の活用方法から会計処理まで様々な課題に対して、平均4ヶ月から半年の長期的なプロジェクト、及び、1日完結型のプロボノイベントを実施し、より間口広く地域と社会人との新しい繋がりを創出しました。

【支援内容の内訳】

広報・情報発信	12
拠点施設の活用	4
イベントの運営改善	2
ソーシャルビジネス	2
会計処理の改善	1
その他	1



鶴見区・榎本 ホームページリニューアル支援

放置自転車の解決を皮切りに、防犯パトロール、チラシ・看板撤去などの取り組みを、行政に頼らず住民主体で進めてきた、地域活動協議会のモデル地区とも言われる鶴見区榎本。プロボノチームでは、こうしたまちづくりの担い手をさらにさらに広めるため、若者や新住民など幅広い層をまちづくりに巻き込んでいくためのツールとして、ウェブサイトのリニューアルに取り組みしました。



鶴見区・緑 コミュニティビジネス事業性検討

緑地域では、子育て支援分野における事業として、大阪市の公共の学童保育が終わる夕方5時以後の学童保育サービスを、地域として運営・提供していくことを検討していました。そこで、プロボノチームでは、学童保育に対する地域住民ニーズの把握と、新サービスを提供する場合に考えられるサービス内容、リスク対策、収支シミュレーション、スタッフ体制等を検討し提案しました。



港区・磯路 磯路会館の運営方法の検討

港区磯路地区のコミュニティ活動の拠点となる施設が「磯路会館 老人憩いの家」です。より自立した運営方策を見出しながら、より多くの地域住民に活用してもらえるような施設にしていけることが課題となっていました。プロボノチームでは、磯路会館が、地域コミュニティの拠点としての魅力を高めながら、同時に、持続可能な会館運営をするための事業モデルについて検討しました。



西淀川区・出来島 夏の盆踊り活性化の検討

西淀川区・出来島地区では、イベントを通じた地域コミュニティづくりを進めていきたいと考えていました。特にその中心となるのが、夏の盆踊りで毎年1,000人以上が集まりますが、会場のスペースにはまだ余裕がありました。プロボノチームは、出来島の夏の盆踊りを、地域内外により魅力的なものにし、活気あるイベントとするための企画や広報、イベントプロデュースを行いました。

国立公園の活性化に向けて ～ 環境省との協働事業

国立公園を対象とした初めてのモデルプロジェクトも実施しました。これは国立公園を所管する環境省自然環境局との連携で成立したもので、今回は町のほぼ全域が富士箱根伊豆国立公園の中にある箱根町を、新しい視点からPRする情報発信プロジェクトとなりました。

箱根町は、神奈川県西部の他1市2町とともに「箱根ジオパーク」として日本ジオパークに認定されている、科学的に重要な地形・地質などを有する地域です。箱根といえば温泉、というイメージに加えて、この自然環境をさらにアピールし、日帰りから宿泊滞在型の観光地へシフトしていくことが課題となっています。観光客層に今後取り込みたい若い世代の女性をターゲットに、「ジオパーク」を箱根観光の新たな切り口として認知させることを目的としたパンフレット作成をプロボノにより支援しました。

制作したパンフレットは初版1万部印刷（その後も増刷）され、箱根ビジターセンター等で配布されています。



プロボノチームは実際に箱根現地へ赴き、ジオパークの主要ポイントをウォーキングしたり、地元観光ボランティア等へのヒアリングを実施するなどして情報収集を行いました。

プロボノを各地に根付かせるために ～ プロボノ人材研修

日本国内の各地には、プロボノの支援を必要とするNPO等の社会セクターや、プロボノとして参加することに関心を持つ潜在的なプロボノワーカーが多数存在しています。

より多くの地域で、着実に成果を生み出すことができるプロボノの運営・コーディネートに必要なスキルを提供し、「よきプロボノ」を広め、各地に定着させていくことは、サービスグラントの使命でもあります。

こうした中、2013年度は、神奈川県と協働し、横須賀市立横須賀市民活動サポートセンターを対象に、プロボノ・コーディネート人材研修を提供しました。

同センターでは、研修を通じて得た知見をもとに、2014年度以後、横須賀市内におけるプロボノ活動の立ち上げに取り組み、サービスグラントも継続的なサポートを提供していきます。

5 | プロボノに関する広報活動

国際的プロボノキャンペーン「プロボノウィーク」に初参加

「プロボノウィーク」とは、米国弁護士協会が提唱したプロボノ普及のためのキャンペーンです。例年10月下旬の1週間に期間が設定されており、2013年は10月20日～26日がプロボノウィークとして、米国をはじめ、世界各地でプロボノに関するイベントやセミナー等が開かれました。

サービスグラントでは、2013年に初めて「プロボノウィーク」に参加し、期間中に多数のイベントを集中開催。プロボノに対する興味・関心を喚起する取り組みを行いました。



INTERNATIONAL
PRO BONO WEEK
2013 国際プロボノ週間 2013

プロボノフォーラムTOKYO 2013

プロボノウィーク期間中となる2013年10月23日（水）に、渋谷・ヒカリエ8階のイベントスペース「8/ COURT」にて、「プロボノフォーラムTOKYO 2013」をパナソニック株式会社との共催により開催しました。

ゲストに、greenz.jp編集長の兼松佳宏さんをお招きし、難病の子どもたちとその家族のための滞在施設を運営する「ファミリーハウス」の事業計画立案を支援したプロジェクト、プロボノの支援を効果的に活かして、複数の企業との協働を実現した「荒川クリーンエイド・フォーラム」、サービスグラント初の教育分野におけるプロボノプロジェクトとなった「千葉工業高校コンソーシアム」等の事例紹介を行いました。また、フォーラム後半は、分科会形式によるディスカッションや質疑応答が行われ、来場者を交えて熱気に満ちた議論が繰り広げられました。



会場の渋谷・ヒカリエには、満席となる160名の来場者が参加しました。

経団連1%クラブ プロボノセミナー

プロボノウィーク期間中の2013年10月22日（火）には、日本を代表する200社以上の企業や多数の個人が会員として所属する経団連1%クラブ主催のセミナーにて「プロボノ」がテーマとして取り上げられ、関心を持つ企業関係者のみなさまが多数集まりました。

サービスグラント代表・嵯峨の基調講演につづいて、NEC、日本マイクロソフト、パナソニック（発表順）の各社から事例紹介を行い、その後の交流会では、プロボノによる支援を受けたNPOを交えた名刺交換や質疑などが行われました。

プロボノを実践する企業は、まだごく一部にとどまっていますが、こうした情報発信活動を継続しながら、日本企業が、効果的にプロボノを取り入れながら、企業の活力を高めることにつながればと考えています。



会場となった経団連ホールには、企業関係者を中心に約80名が来場しました。

その他のプログラム

上記に加えて、プロボノウィーク期間中には、大阪で「大阪プロボノマラソン大阪2013」（9ページ参照）、東京で、日本マイクロソフトによる「プロボノREADINESSワークショップ」（11ページ参照）を実施したほか、Asian Venture Philanthropy Networkによるセミナーへの出講、など、また、通常のプロボノワーカー説明会を拡充したイベントなども開催し、連日のようにプロボノ関連イベントを実施しました。

6 | 国際的ネットワーク

グローバル・プロボノサミット 2014

米国サンフランシスコで開催された、第2回グローバル・プロボノサミットに参加しました。2013年の第1回よりもスケールアップし、世界15か国から20団体のプロボノコーディネート団体、連携先企業、プロボノを推進する各分野の専門家などが集まり、活発な交流を繰り広げた4日間となりました。

プロボノ発祥団体であるTaproot FoundationとBMW Foundationの共催で運営された今回のプログラムでは、プロボノコーディネート団体だけでなくグローバル企業担当者や専門家など幅広い参加者とのセッションも多く、プロボノ推進の課題となっているテーマについて一緒に議論する貴重な機会が得られました。また、Taproot FoundationのCEOが創設者のAaron Hurst氏からLiz Hamburg氏に交代、新たなプロボノマッチングサイト「Market Place」の立ち上げなど、世界のプロボノ全体にとっての一大ニュース発表の場に立ち会うこともできました。

一方で、プロボノコーディネート団体内での経験の共有、協働具体化に向けての議論ができたのも大きな成果のひとつです。各団体のプログラム内容のシェア、中間支援団体共通の課題解決に関する意見交換に続き、ヨーロッパ、北アメリカ、アジアなど、近隣同士の団体のネットワーク強化についても積極的な議論が交わされました。日本のサービスグラントをはじめ、中国、韓国、シンガポール、サウジアラビアなどの団体を含むアジアチームは、その協働の第一歩として、2014年10月に「アジア・プロボノラリー」というアジアのプロボノメンバーが集結する国際イベントを、東京で開催することを宣言しました。サービスグラントはこの国際イベントのホストという大役を担ったわけですが、アジアのプロボノの力を最大化できるよう、成功に向けて一丸となり準備に取り組んでいます。



第2回のサミットはサンフランシスコで開催。日本を含む世界15か国から参加。



Taproot Foundation新CEOのLiz Hamburg氏（右）と、BMW Foundation専務理事のMarkus Hippes氏。



活発な意見交換を行うアジア各国からの出席者

ソウルへ、上海へ！ アジアとつながるサービスグラント

グローバルなネットワークは、アジアの近隣諸国との間で、より密接な交流を生み出しています。

2013年11月に韓国・ソウルで開かれた「第1回 東アジアプロボノ会議」では、韓国・中国・日本からプロボノコーディネート団体が集まり、各国のプロボノの取り組みを紹介。韓国の企業や大学等関係者120名が集いました。また、翌12月には、国際ボランティアデーを記念したプロボノイベントが中国・上海で開かれ、サービスグラントによる日本の事例紹介を中国語で行いました。

また、プロボノウィーク期間中には、Asian Venture Philanthropy Network主催の国際セミナーに参加し、日本国内のプロボノの状況を紹介するパネリストとして登壇しました。



上海でのプレゼンテーションは、現地のボランティアの方の力も借りながら、一部中国語で行いました。

このように、サービスグラントでは、世界各地で広がりを見せるプロボノの動きをウォッチしながら、今後も、内外に向けた情報発信を継続していきます。

7 | 情報発信実績

メディア掲載一覧

新聞	◆四国新聞 2014年2月20日 ◆山形新聞 2014年2月18日 ◆日経新聞（タ刊） 2014年2月10日 ◆日経新聞（大阪タ刊） 2013年8月19日（月） ◆日経新聞（タ刊） 2013年4月30日（火）
テレビラジオ	◆週間BS-TBS「週刊BS-TBS報道部」2013年11月24日 ◆J-WAVE WONDER VISION 2013年11月17日 ◆関西ラジオワイド（NHK ラジオ第1・関西向け）2013年10月17日放送
雑誌・専門誌	◆織研新聞 2014年1月28日(火) ◆三井住友フィナンシャルグループ CSRレポート2013 ◆経団連タイムス 第3154号 2013年11月14日 ◆コープこうべ機関紙『きょうどう』 第1036号 2013年10月1日 ◆ボランティア情報 Vol.436 2013年9月 ◆JICA広報誌「mundi」No.1 2013年10月 ◆日経エコロジー 173号 2013年10月8日 ◆Culture, Energy & Life CEL 2013年7月 Vol.104 ◆POCO21 2013年6月号 No.132 ◆自分らしい「暮らし」発見マガジン シティライフ 北摂WEST、EAST版 2013年6月VOL.124 ◆あいらいふ 通巻第62号 2013年4月25日 ◆週刊東洋経済 2013年4月13日第6455号 ◆ゆうちょ銀行会員誌「ときめきプラス」2013年春夏号vol.1 ◆「ソトコト」 2013年4月号 No.166
ウェブ	◆greenz.jp 日本と世界のソーシャルデザイン 2013年11月27日 ◆組織人の新しい働き方、暮らし方を紹介するウェブマガジン「My Desk and Team」 2013年6月17日
書籍	◆「2014年日本はこうなる」 (編集／三菱UFJリサーチ&コンサルティング 東洋経済新報社) 2013年11月28日発行 ◆「認定NPO法人名鑑 2013年度版」 (著・編集／「認定NPO法人名鑑」編集部 技術評論社) 2013年5月23日発行

▼日経新聞(タ刊) 2014.2.10



▼経団連タイムス 2013.11.14



▼ときめきプラス 2013年4月発行



講演・講師実績一覧

6月	・全国社会福祉協議会主催 ボランティアシンポジウム ・大阪市鶴見区主催 まちづくりフォーラム
8月	・子育て応援とうきょう会議事務局 (東京都福祉保健局少子社会対策部計画課内) 主催 子育て応援とうきょう会議 協働会員100倍増プロジェクト2013 「勉強会(2) 企業・NPO・自治体の協働による子供・ 子育て家庭支援の取組みの促進に関する調査について」 ・グランフロント大阪 ナレッジキャピタル主催「ナレッジドナー」
10月	・経団連主催 「プロボノセミナー～企業人の強みを活かす社会貢献活動の一手法として」 ・大阪市立大学大学院創造都市研究科主催 「プロボノとは」 ・AVPN (Asian Venture Philanthropy Network) Roadshow
11月	・WLBメッセ in 大阪実行委員会事務局主催 WLB(ワークライフバランス) in大阪 「第2分科会 行動するNPO!」 ・神戸大学経済学部 社会コミュニケーション入門 「社会とのコミュニケーションを通して、社会課題を解決する」 ・武蔵野市主催「やってみよう! じぶんごとプロジェクト」第3弾 「想いを育てる・支える仕組みづくり」
12月	・シブヤ大学主催 Think College シブヤに集い、聴き、考える スキルを生かしたボランティア「プロボノ」をはじめよう。
1月	・大阪市生涯学習センター主催 まちづくりセミナー 「この頃話題の“プロボノ”って？」
2月	・生駒市主催 プロボノフォーラム in 生駒 ・芦屋市主催 市民が創るプロジェクト展 「地域のプロボノ活動を考える」 ・大阪社会福祉士協議会主催 福祉ミッション研修 「プロボノとコラボレーション」 ～プロボノ活動の紹介、 福祉的課題の解決手法を学ぶワークショップ～
3月	・逗子市 市民活動のススメ講座 プロボノで「もうひとりの自分」になる! めざせスキルボランティア

▼経団連プロボノセミナー 2013.10.22



▼子育て応援東京会議 2013.8.23



▼生駒市プロボノフォーラム 2014.2.8



8 | 会計報告

2013年から、決算期変更を行い、従来の3月末を改め、9月末を決算期に変更させていただきました。

そのため、今年度は、**2013年4月～9月期（6ヵ月間）**の活動計算書の情報を掲載させていただきます。

※ なお、年次報告書については、今後も日本の一般的な年度である4月～翌年3月を基準に作成し、その時点で最新の会計報告を掲載してまいります。

I 経常収益			
1 受取会費			
	正会員受取会費	20,000	20,000
2 管理費	事業収益		
	NPO支援事業	15,873,032	
	普及・広報に関する事業	659,550	
	その他目的を達成するために必要な事業	0	16,532,582
3 その他収益	受取利息	1,477	1,477
経常収益計			16,554,059
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
	給料手当	4,270,810	
	人件費計	4,270,810	
(2)その他経費			
	外注費	3,557,210	
	会議費	73,085	
	交際費	54,450	
	旅費交通費	1,721,253	
	通信運搬費	115,623	
	消耗品費	125,003	
	印刷製本費	207,983	
	支払手数料	233,000	
	その他経費計	6,087,607	
事業費計			10,358,417
2 管理費			
(1)人件費			
	役員報酬	1,494,000	
	法定福利費	751,315	
	福利厚生費	25,216	
	賞与引当金繰入	658,800	
	人件費計	2,929,331	
(2)その他経費			
	外注費	231,000	
	会議費	17,917	
	交際費	83,470	
	旅費交通費	73,890	
	通信運搬費	35,128	
	消耗品費	180,186	
	印刷製本費	45,598	
	新聞図書費	2,100	
	支払手数料	335,310	
	地代家賃	1,284,000	
	賃借料	44,100	
	租税公課	391,200	
	その他経費計	2,723,899	
管理費計			5,653,230
経常費用計			16,011,647
	税引前当期正味財産増減額		542,412
	法人税、住民税及び事業税		310,300
	当期正味財産増減額		232,112
	前期繰越正味財産額		1,834,042
繰越収支差額			
	次期繰越正味財産額		2,066,154

9 | 理事より

川淵 恵理子【理事】 株式会社イデー 常務取締役

社会に対して何が出来るのか——？

この10年を振り返ると、インターネットの発達は政府や大企業でなくとも、個人が社会に対して影響力（実際には良いことも悪いことも）を発揮できる可能性を発見させてくれました。

今の社会の諸問題の解決に際し、この発見は大きな可能性を秘めていると思われます。個人が社会的なサービスの享受者であると同時に提供者として存在出来る状況を、ネット空間を越えてつくること、それが今強く求められており、サービスグラントの活動がその一助になることを願っています。

金子 和夫【理事】 金子和夫事務所株式会社 代表取締役

プロボノワーカー、プログラム、プロジェクト件数とも成長著しく、プロボノが着実に広がりつつあることを実感しました。特に東京では企業との協働、関西では行政との協働など、地域性が出ていることが注目されます。今後、さらに地方へ展開していくなかで、地域のNPOなど連携・協働の相手が多様化してくると思います。プロボノのさらなる発展を期待しています。

中野 宗【理事】 株式会社アークウェブ 代表取締役社長

プロボノ」という言葉に接する頻度が、本当に増えました。

同時に最近、やや理解が怪しそうな人たちがプロボノ、プロボノと言いはじめている面もあります。が、これはある言葉や概念が世の中の当たり前として浸透する過程で必然的に起こることなのかもしれませんね。

プロボノの普及でよくが特にうれしく思うのは、受益側であるノンプロフィット団体が最近盛んに自サイト上などでプロボノによる参画者を募りはじめたこと。志はもっているけど少人数で必死にまわすことが当たり前だった団体が、活動の成果を上げるために積極的に外にリソースを求めはじめる。これは、さまざまな団体が次のステップに進むための重要な変化です。プロボノは、日本のノンプロフィット団体の質的变化に確かに貢献していると感じています。

吉岡 直樹【監事】 合同会社アンブラグ 代表取締役社長

本年度も順調に成長し、プロボノの量的・質的な広がりによりサービスグラントが確実に貢献していることを実感しています。プロボノはこの先はさらに一般的、かつ先進的な社会インフラに成り得ることでしょう。そして経済成長だけではない本質的な意味での「社会成長」みたいなものがより求められているとするならば、プロボノはそこに大いにコミットできるし、むしろそういう流れをリードしていく役目が回ってくるのかもしれない。

奥山 俊一【特別顧問】 株式会社日本総合研究所 特別顧問

サービスグラントのプロボノ仲介活動の益々の広がり、大きな市民社会創りへの貢献に敬意を表します。

高齢社会の進展に着目し、シニア層の社会参画の在り方を引き続き模索してまいりたいと考えます。

do it pro bono.